

第13回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会

日時：令和8年2月5日（木）

18時～19時30分

会場：長野合同庁舎5階 会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

- （1）「第12回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会」まとめ
- （2）再編実施基本計画(案)について
- （3）学びのイメージに係るグループワーク
- （4）その他

4 諸連絡

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会 構成員名簿				
※◎座長 ○新構成員				
				(敬称略)
	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	西澤 雅樹	長野市	副市長
2		丸山 陽一	長野市教育委員会	教育長
3	産業界	塚田 まゆり	長野商工会議所	副会頭
4	学識経験者	◎茅野 理恵	信州大学学術研究院教育学系心理支援教育グループ	准教授
5		小林 勝彦	長野県専修学校各種学校連合会	顧問
6	地域	坪井 俊文	長野地域振興局	局長
7		堀江 三定	長野市スポーツ協会	理事長
8		伊藤 羊子	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室	室長
9		戸井田 由奈	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	コーディネーター
10	同窓会 振興会	西澤 敏	長野東高等学校同窓会	会長
11		和田 安雄	長野吉田高等学校戸隠分校同窓会	会長
12		鷲澤 幸一	長野高等学校定時制振興会	会長
13		塚田 篤雄	長野商業高等学校定時制振興会	会長
14		岡 正子	長野西高等学校通信制振興会	会長
15	PTA	服田 豊	長野東高等学校PTA	会長
16		若麻績英亮	長野市PTA連合会(小学校)	副会長
17		石坂 晶子	長野市PTA連合会(中学校)	副会長
18	小中学校等 関係者	宮本由希子	長野市小学校長会(長水地区小学校長会)	会長
19		小林 克浩	長野市中学校長会(長水地区中学校長会)	会長
20		丸山 勝巳	長野養護学校	校長
21		中島 秀明	県立高等学校長会定通部会長(松本筑摩高等学校校長)	会長
22	再編対象校	宮下 蓮生	長野東高等学校	生徒会長
23		宮尾 悟良		校長
24		柳澤 秀樹		教諭
25		○中井 美希	長野吉田高等学校戸隠分校	生徒会長
26		○西川 煌華		副会長
27		内藤 信一		校長
28		丸山 淳一		教諭
29		齊藤 琉水那	長野高等学校定時制	生徒会長
30		廣田 昌彦		校長
31		山本 俊介		教諭
32		奥山 陽生	長野商業高等学校定時制	生徒会長
33		山岸 蓮弥		生徒副会長
34		加藤 泰久		校長
35		寺嶋 龍也		教諭
36		○小林 華子	長野西高等学校通信制	生徒会長
37		亀山虎太郎		生徒副会長
38		三輪 元子		校長
39		古澤 広人		教諭

【事務局】		
学校名	氏名(役職等)	
長野東高校	(教頭)山本 丈治 (教諭)柳澤 秀樹 栗原 聡 染谷 翔太	
長野吉田高等学校戸隠分校	(教頭)宮下 由夫 (教諭)丸山 淳一	
長野高等学校 定時制	(教頭)小出 一也 (教諭)山本 俊介	
長野商業高等学校 定時制	(教頭)島崎 剛 (教諭)寺嶋 龍也	
長野西高等学校 通信制	(教頭)宮坂 洋子 (教諭)傳田 伊史 (教諭)古澤 広人	

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会 事務局	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	細萱 裕樹	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	土橋 邦彦	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	米澤 和真	高校教育課 高校再編推進室	主事
	小木曾一希	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第 12 回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 7 年 12 月 23 日（火）18 時～19 時 30 分		
場 所	長野県庁西庁舎 111 号会議室		
出 席 （敬称略） （◎座長）	◎茅野理恵、小林勝彦、伊藤羊子、戸井田由奈、西澤 敏、和田安雄、塚田篤雄、岡 正子 服田 豊、若麻績英亮*、石坂晶子、宮本由希子、小林克浩、丸山勝巳、中島秀明*、宮下蓮生 宮尾悟良、柳澤秀樹、徳武誠也、内藤信一、丸山淳一、廣田昌彦、山本俊介、奥山陽生 山岸蓮弥、加藤泰久、寺嶋龍也、三輪元子、古澤広人（以上 29 名 *オンライン 2 名内数）		
欠 席 （敬称略）	西澤雅樹、丸山陽一、塚田まゆり、坪井俊文、堀江三定、鷺澤幸一、 服田 豊、田中くるみ、亀山虎太郎（以上 9 名）	傍 聴	6 名
事務局	長野東高校	山本教頭（事務局長）、柳澤教諭、栗原教諭、染谷教諭	
	長野吉田高校戸隠分校	宮下教頭（副事務局長）、丸山教諭	
	長野高校定時制	小出教頭、山本教諭	
	長野商業高校定時制	島崎教頭、寺嶋教諭	
	長野西高校通信制	宮坂教頭、傳田教諭、古澤教諭	
当日資料	懇話会会議資料（次第、構成員名簿、第 11 回懇話会まとめ、総合学科および通信制に係る資料）		

会議事項

- (1) 第 11 回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 新校のフレックスな学びの実現に向けて
 - ①総合学科の学びについて
 - ②通信制の学びについて

主な内容 (○意見及び質問等 →県教委)

【会議事項】

(1) 第 11 回長野東 S F 新校実施計画懇話会まとめについて

○「(2) 再編実施計画に示す基本計画について」の内容について加筆修正をいただきたい。

○現在の法的には定時制の枠組み、広報(募集)上ではフレックス型(制)の名称をとあるが、この違いと運用方法について、もう少し分かり易く説明いただきたい。

→現在の法的には、全日制・定時制・通信制の課程以外にフレックス課程のような新たな課程を設置できない。しかしながら、この仕組みは大変魅力的なので、これから入学してくる予定の小学生・中学生などどのように周知していくかが課題であり一番大切と考える。これまでの既成概念に囚われず、広報上使用していく名称を「フレックス型(制)」としていきたいと考えている。

→承知した。(太文字・下線部について加筆修正)

(2) 新校のフレックスな学びの実現に向けて

①総合学科の学びについて「懇話会資料 P 5～P 7 参照」

○自分の子どもが総合学科の高校に在籍していたが、3 年生の時は自分の興味のある科目を選んで授業を受けていた。スポーツを熱心に取り組む生徒さんは、午前も午後も体育関連の授業を選択したり、また外部の専門学校に出向いて、スポーツトレーナーの人とより専門的な勉強をするなど、総合学科は自分のやりたいことを自分の力で選択して学べるのが良いと思った。

○自分の専門外の科目(一般教養的な科目)の履修についてはどのように考えるのか。

→例えば美術を選択した生徒が工業科の科目も選択して製図を作成したり、CAD を使って作図するなど、それぞれ自分で考えて専門外のことを学ぶことが自分の専門の美術に生かされ学びの掛け算ができる。

○多くの科目から高校 1 年生が本当に選択をすることは可能なのか。

→科目選択に係る丁寧な説明と支援により可能。

○大学入試などへの対応は。

→総合学科ではおよそ 40%が大学や短大等に進学。それぞれの生徒が希望する進路に合わせて科目選択が可能。例えば英語が好きで勉強したいという生徒は英語の科目を多く履修して得意を活かして進学する。共通テストに主眼を置いて勉強する生徒もいるが、昨今、増加している「総合型選抜」を利用して進学するケースが増加することも予想される。

○特別支援教育という視点で、「ギフテッド」などの突出した能力を持つお子さんや特別な支援が必要なお子さんの得意分野を伸ばせるような学校のあり方を検討していただきたい。入試の壁や柔軟な教育課程の設定など単位修得には課題は多くあるが、個々のニーズに合わせて能力を伸ばすことができる学校であってほしい。

○統合時には新しいシステムの学校を創ることは重要だが現在の各校の良さを大切に考えて持ち寄ることも必要。多様な生徒への柔軟な支援について丁寧な対応をしていただきたい。

➡生徒にとって魅力的で通いやすく、毎日行きたくなる学校になるように検討を進めたい。それぞれの学校の魅力を包括できる仕組みを創ることが県教委の考え方である。今後は学びについて更に意見交換を深めていただく上で、その一つの例として総合学科の仕組みがある。今後も様々なご意見をいただきながら方向性を検討していきたい。

②通信制の学びについて「懇話会資料P 8～P13 参照」

○総合学科を考えた時、戸隠の環境や文化を活かしてサテライト校として残すことで、他の多部制単位制にはない形を全国募集も視野に入れて魅力を発信することも必要ではないか。

全体を通しての意見等

○総合学科や通信制は、個人に特化したカリキュラムが実現できることが分かった。その反面、生徒同士の繋がりはどうになるのか。また、将来的に子どもたちがどの様に地域社会と繋がっていくのかは今後の課題であると感じた。

今後の予定について(県教委より)

➡総合学科については、各地区への配置バランスなどの課題を考慮し、教育委員会として新校への設置について慎重に検討をする。次回以降の懇話会では、これまでにご議論をいただいた内容をもとに、再編実施基本計画①から⑥の内容について提案し再編実施基本計画の検討をする。

○基本計画の決定に向けた今後のスケジュールは急すぎるのではないかと。懇話会において、より丁寧な意見交換をお願いしたい。また、懇話会の開催日程については欠席者になるべく無いような日程調整をいただきたい。

➡承知した。検討を継続していくという形で丁寧に対応をする。

【座長まとめ】

新校では、例えばプロスポーツ選手を目指すなど、明確な目標を持って進んでいる子ども達にとって、障壁なく突き進むことができる学習環境の設定や、ギフテッドなど多様な背景を持ち多様な方向に進んでいく子ども達にとって、充実した高校生活が送れるような支援が重要であると考えます。更に、高校進学時になりたいとか、やりたいなどといったことを見いだせずにいる子ども達にとって安心して生活することができ、「なりたい」の意欲の回復を促進できるような環境を学校の中で実現することが必要ではないか。些細なものであっても自己選択、自己決定ができる場が必要になってくると言われている。フレキシブルな学びの中で意欲的になりたい自分を目指せる、そんな力をつける学校づくりに向けて引き続き多くのご意見をいただきたい。

その他

【次回】

日時：令和8年2月5日（木）

会場：長野県庁西庁舎 111 号会議室

内容：長野東 S F 新校再編実施基本計画について

塩尻総合学科新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

塩尻志学館高等学校、田川高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 15 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 15 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

塩尻志学館高等学校

新校が目指す学びのイメージである「地域を学びのフィールドとして、地域との共創を目指す学校」「多様な経験、学び、人との出会いを通して一人ひとりの可能性を広げられる学校」を実現することがより期待できる環境であるため、塩尻志学館高等学校の校地を活用することが適切であると考えられる。

4 設置課程・学科及び想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 6 学級程度

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 11 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 6 学級程度が想定される。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

自らの興味や関心に応じて学びを選択し、地域に開かれた学びの場で様々な課題に挑戦し、自身の未来を切り拓くことができる総合学科高校を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 10 年程度を想定

学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

資料1-2

目指す 自分像

- 自身の軸を持ち、自ら課題を見つけ、価値を創り出す挑戦ができる自分
- 豊かな心を育み、他者を尊重し、互いを高め合いながら協働できる自分
- 粘り強く学び続け、自身の道を切り拓き、地元の未来を支える自分

目指す 学校像

- 多様な学びを通じて、自分らしさを伸ばし、心豊かなウェルビーイングを実現する学校
- 地域を学びのフィールドとして地域との共学共創を目指す学校
- 生徒が主人公となり、社会とともに成長し続ける学校

学 び の 3 本 柱

① ワクワク！ 多彩な学び

人生を豊かにする学びが
ここにある

【表現・感性を学ぶ】

- ▶音楽・美術・書道・演劇などを通した総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】

- ▶フランス語、中国語、ハングルなどから始まる国際交流

【ICT 活用を学ぶ】

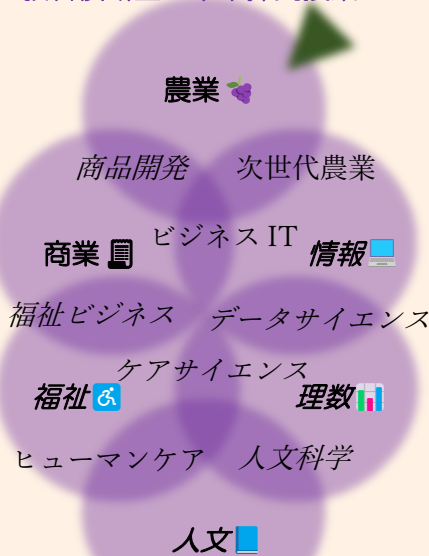
- ▶プログラミング、マルチメディア、データサイエンス

【生活を学ぶ】

- ▶農業、商業、家庭、福祉など人生を豊かにする科目

② ひろがる！ 未来と探究

教科の枠を越えて広がる
教科横断型“未来探究授業”



③ つながる！ 地域とキャリア

地域に開かれた学びの場で
地域とつながる

【産学官民連携】

- ▶「シオジリ学」
⇒地域課題解決型学習
「起業家育成プログラム」
⇒地域の未来を担う人材育成、事業創出
「ワインバレー構想」
⇒地場産業との連携

【小中高連携】

- ▶小中高一貫カリキュラム
- 【開かれた学び】
▶ブドウ収穫体験、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

のびやかに学ぶ環境

学 び を 支 え る 仕 組 み

- ❖主体的な学びを促すゆとりある時間割と柔軟なカリキュラムで、多様な学び方を実現。深い学びを通じて確かな学力を育み、大学等進学へとつなげる。
- ❖地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。
- クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～
- ❖異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。
- ❖仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気醸成する（職員サポーターズシステム）。

地域の方々との共同開発

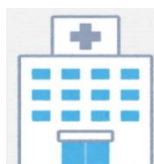
新校が生涯学習の出発点

地域共学共創コンソーシアム

各種学校



医療・福祉関係



地元企業・商工会



自治体



研究機関



長野東スーパーフレックス新校(仮称)再編実施基本計画(案)

1 再編統合対象校

長野東高等学校(全日制)、長野吉田高等学校戸隠分校(定時制)、長野高等学校(定時制)
長野商業高等学校(定時制)、長野西高等学校(通信制)

2 募集開始(開校)年度

令和____年度

3 活用する校地・校舎

長野東高等学校

第8回懇話会においてご了解済

4 設置課程・学科及び想定する募集学級数

第11回懇話会においてご了解済

定時制課程 _____ 学科 _____ 学級程度

通信制課程 _____ 学科 募集定員 _____ 名

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

6 施設整備

- ・新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。
- ・施設整備に要する期間は _____ 年程度を想定。

資料2-2

自分らしく学び、「なりたい自分」へ

～夢を探し、追いかけて、かなえる「スーパーフレックス新校」～

目指す学校像

- 一人ひとりにあった学習スタイルと共に高め合う活動を通じ、学びに向かう力を育む学校
- 柔軟に学べる仕組みを活かし、自己理解を深め、学校内外でやりたいことを探し、追求できる学校
- 地域資源を活かした産学官連携のもと社会とのつながりを深め、自らの選択で行動できる力を伸ばす学校

育成したい生徒像

- 夢や目標に向かって主体的、意欲的に学び、挑戦していく生徒
- 多様な生き方を尊重し、豊かな人間関係を構築していく生徒
- 社会の一員としての責任を果たし、自分らしい未来を考え行動していく生徒

フレキシブルで多様な学び

◆学びを創る
探究学習

課題を見出し解決に向けて考察する。

- ▶ 探究をカリキュラムの中心に据えた「学び合う」学び
～対話のある活動を取り入れた授業～

- ▶ 地域共学共創コンソーシアムと連携した様々な講座の開設
～豊かな自然環境や人財を活かした実践的・探究的な授業～

- ▶ 学校設定教科「キャリアデザイン（仮称）」を入学年次に全員が受講
～人に出会い、自分らしい未来のために必要な学問（学び）を見つけるための授業～

柔軟な学びの仕組みを活かした多彩な単位認定

◆学びを深める
高大等連携プログラム

上級学校や研究機関の知見に触れる。

- ▶ 大学や専門学校等で受けた授業を卒業単位として認定

- ▶ 様々な研究機関や団体等と連携した校内外での探究的活動を卒業単位として認定

◆学びを広げる
キャリア教育

社会人・職業人としての自立に向けて、地域や産業界と協働する。

地域をフィールドにした実践的な授業の設定

- ・ボランティア活動
- ・長期インターンシップ
- ・アカデミックインターンシップ研修（大学等の研究や授業体験）
- ・デュアルシステム（学校での授業と企業での就業体験を並行して行う職業教育）
- ・**アントレプレナーシップ教育プログラム（起業家的行動能力の育成）**

- ▶ 留学、部活動、サークル活動等の自主的な活動を地域と連携し、学校全体で支援

フレキシブルで多様な学びを支えるシステム

学校生活全般に関わるシステム

- 無学年制
- 2学期制（前期・後期）
- 学期ごとに単位認定
- 9月卒業・10月入学も可能

- 併修可能
- 転籍可能

職員＋地域人財を活用したアドバイザーによる支援

- 自主的活動や進路をサポート
 - ・進学、就職
 - ・留学
 - ・探究活動
 - ・部活動、サークル活動
 - ・ボランティア活動 など

- メンタルサポート
 - ・スクールカウンセラーの配置
 - ・大学や福祉機関・医療機関と連携

地域共学共創コンソーシアム

大学・専門学校
幼保小中高

医療・福祉機関



地域企業・産業



地域



自治体

第13回長野東SF新校再編実施計画懇話会

学びのイメージに係るグループワークテーマ

- 1 新校が目指す学校像にある「柔軟に学べる仕組み」は「自分にあった学びの時間が選べる」ことが特色です。資料10ページ資料3-1、「1年次は3部制」の仕組みと、資料3-2「1年次から部の枠を設けない」仕組みを参考にしてその方向性についてご意見をお願いします。

- 2 資料8ページ「地域共学共創コンソーシアムと連携した様々な講座の開設」と「フレキシブルで多様な学びを支えるシステム」について、地域と連携した学び(地域の伝統文化・豊かな自然環境や人財を活かした授業、課外活動等)に関して、テーマ1で考える学校でどんなことが出来たらよいか、また面白いと思いますか？また、それらの活動をサポートする支援体制はどのようなものが考えられるか。

- 3 資料8ページ「フレキシブルで多様な学びを支えるシステム」の「メンタルサポート」について、具体的にどのようなサポートや支援体制が必要と考えられるか。

- 4 本日の懇話会終了後、以下の二次元コードよりご意見のご入力が可能です。
入力締め切り 令和8年2月13日(金)17:00 まで



資料3-1

新校でのフレックスな仕組みの例 その1

- 定時制(多部制)と通信制の機能を併せ持つこれまでにない学びを可能にする
- **2年次以降**は1時限～12 時限の幅広い時間帯を自由に選択できる柔軟な学びの仕組み
- 通信制との併修によるフレキシブルな学びが可能
- 幅広い選択科目から興味・関心や進路などに合わせて自由に選択。(必修科目以外)

1年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	I 部	所 属 履 修				併修(受講)可能							
	II 部	併修(受講)可能				所 属 履 修				併修(受講)可能			
	III 部	併修(受講)可能								所 属 履 修			
2年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
3年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
4年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												



通信制との併修

資料3-2

新校でのフレックスな仕組みの例 その2

- 定時制(多部制)と通信制の機能を併せ持つこれまでにない学びを可能にする
- **1年次から**1時限～12 時限の幅広い時間帯を自由に選択できる柔軟な学びの仕組み
- 通信制との併修によるフレキシブルな学びが可能
- 幅広い選択科目から興味・関心や進路などに合わせて自由に選択。(必修科目以外)

1年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共通												
2年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共通												
3年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共通												
4年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共通												



通信制との併修